

目的：第1報*において、主婦の年齢別に生活意識・だんらんの実態に差がみられたことを報告した。さらに、本報では、だんらんに対する考え方がいかなる要因に影響されているか、また、だんらんの実態やだんらん空間との関わりを明らかにする。

方法：第1報に記した集合住宅の調査データに加え、「だんらん空間の雰囲気に影響を及ぼす諸要因に関する調査研究」**で得た有効票395の「だんらんに関する意識・実態」のデータを含めて、分析を行った。

結果：だんらんに対する考え方についてクラスター分析を行った結果、大きく3つに分けられた。調査対象の諸要因や生活時間などとの関わりを検討した結果、(1)は、低年齢層、夫婦のみの家庭に多く、(2)の家庭には、子供中心のにぎやかな、家族本位の傾向がみられた。さらに、(3)は高年齢層で、安定した生活を行いまた望んでいる家庭の主婦に多い傾向がみられた。しかし、これらは互いに独立ではなく、2つ・3つの複合型も多く認められた。さらに、だんらんに対する考え方とだんらんの実態、及びだんらん空間との関わりについても明らかにした。

*河野安美ら：主婦の生活意識とだんらん空間のあり方に関する研究（第1報）

**渡辺崇子ら：だんらん空間の雰囲気に影響を及ぼす諸要因に関する調査研究（第1報）

*, **ともに日本家政学会第35回年次大会研究発表要旨集, p.197, 1983